

コソボ難民の

現状を報告

AMDAの関谷さん

コソボ難民救援のためアルバニアに派遣されたAMDA（アジア医師連絡協議会）の調整員、関谷武司さん（三宅）が広島国際学院大講師が十五日帰国し、岡山市の本部で会見して現地の状況を報告した。

関谷調整員は、三宅和久医師（三宅）と西村肇調整員（四〇）とともに六日にアルバニア入り。コソボ自治州に近

い都市クケスの難民キャンプで巡回診療を行った。

三宅医師が診察した百十二人の患者のうち、五歳未満の子供の患者が三分の一を占めた。疾病は気管支炎などの呼吸器、下痢などの消化器系の病気が多かったが、「警棒で殴られた」というあざだらけの男性や精神的不安を訴える患者もいたという。

AMDAは、第二陣として、来週中にも医師と看護婦を派遣、本格的な医療活動に入る。